

豊岡地区まちづくり懇話会 “とよおか茶論”

日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）14：00～

場 所：豊岡公民館

テーマ：高齢者が元気で明るい地域づくり

次第：1 開会 地域振興課長

2 挨拶 日光市長 大嶋 一生

3 意見交換

4 その他

5 閉会

《意見交換内容》

参加者 3 高齢者が元気で明るい地域づくりということで、自治会長会の会議の時に与えられたのですが、例えば、高齢者が元気で明るい方というのは、自然に自分たちで付き合いを考えることができると思うのですが、高齢者が一人暮らしの方がいた場合に、一人暮らしの人に対して自治会の方でも、あまり手助けができていない状態です。一人暮らしで軽い認知症の方がいて、そういう方が、もしいなくなったとか連絡がつかなくなった場合に、連絡を付けようがないということが度々あったものですから、この問題を課題にさせていただきました。認知症のトラブルや孤独死などがあるのですが、まず家族ができることというのと、一緒に暮らすことが一番いいと思うのですが、一緒に暮らすにも、若夫婦が高齢者のどちらかで折れなくてはいけないので、同居は難しいのではないかと思います。今の世代だと、そういうふうを考えるのかと思います。周囲のサポートとしては、どういうものがあるかということ、本当は家族がやれば一番いいのですが、どうしても家族ができない場合に、日光市や公共機関の方で、こういう一人暮らしの人のサポートができるようにしてくれたらいいなと思いました。そうすれば、もしかすると元気に楽しめるような生活ができるのではないかと思います。提案をさせていただきました。

健康福祉部長 一人暮らしでお住まいの方というのは、日光市は高齢者世帯も含めて増えてきているという状況がございます。通常ですと見守りをどのようにしていくかということになるのですが、見守りの支援ネットワークというものに、自治会長も入っていただいていると思うのですが、それから民生委員や社会福祉協議会、それとか新聞配達店も含め見守りのネットワークというのはつくっております。例えば、郵便局員が自宅に行って異変を感じた時には、行政の方に連絡していただくというシステムで見守りをしているのが 1 つになります。それから、一人暮らしの方の場合ですと、民生委員に一人暮らしの情報というのをお伝えして、どういう方がこの地区にいるかという名簿を、民生委員活動としての範囲の中で、情報提供はできるということになっておりますので、そういった情報を提供させていただいております。民生委員たちの中で見守りをいただいているということになります。それから、その方に支援が必要な状態にある場合というのは、地域包括支援センターで関わっているケースというのは結構ありまして、例えば、公的な介護保険やその他の福祉サービスが必要な場合というのは、包括支援センターの方で、必要なサービスを提供できるようにプランを作って、医療ができるように促していくということで伺っております。それから認知症についても、日光市については高齢化率が高いということもありまして、認知症が疑われるケースや、介護保険認定の対象となりそうな方の人数も、

相対的に多いという状況でございます。認知症の場合ですと、進行をいかに遅らせるかというのが大切なことで、早期発見して早期対応するということが必要でございますので、その部分については、認知症支援チームというのを昨年立ち上げまして、そういう情報があつた時には、医療機関の受診を促したり、あるいは医療機関に繋げていったり、場合によっては公的介護保険等の公的サービスの利用に繋げていくと、そういうふうサポートとしていくような状況でございます。色々申し上げたのですが、その方の状況をまずは把握するということ、それから把握した結果、その方に必要なサービスや、必要な介護そういうものについては、それぞれのケースに応じて対応しているというのが現状でございます。

参加者3 多分そういう答えが返ってくるだろうなと思ったのですが、自分もどこを問題にしていかが少し分からないのです。一人暮らしをどうしたらいいかということに対して、パツと思いついたのですけれど、どういうふうになれば一人暮らしがなくなるのか、家族の信頼関係があれば一番いいと思っています。

健康福祉部長 どうしても核家族化というのは、これは日光市に限らず、全国的に核家族化が進んでおりまして、高齢化していく中で、どうしても高齢者世帯が増えていくということです。我々のいわゆる公的サービスは、不足なものがあるかもしれませんが、いろいろ提供していきたいと思っております。ただ、やはりこの部分については、地域の皆さま方で相互に見守りをさせていただくと、例えば最近あの人見かけないけどどうしたのかなとか、地域で気にかけていただくとか見守っていただく、あるいは最近見かけなくなったけどどうしたのかなということであれば、行政のほうに情報を繋げていただくとか、地域で支えていくという体制が、今後は必要になってくるのかなと思います。どうしても行政だけですと、できる範囲というのは限られてしまいますので、そこはやはり今後の高齢化、核家族化が進んでいく中では、地域で見守っていくところをそれぞれの地域で行っていただくことを、我々としてはお願いしたいと思っております。そういう体制を地域ごとに構築していただきたいというところが、お願いとしてあるというところでございます。

副市長 なかなか解決ができることではありませんが、昨年も見守りについて市民の方からいただいたのが、幸せの黄色いハンカチではないのですけれど、黄色いハンカチを今日も元気ですよと言って、自ら外に掲げるというのはどうなのかというお話がありました。掲げたままになってしまって、例えば中でお亡くなりになっていたということがあるかもしれません。見守りそばネットもそうなのですけれど、色々方法はあるのですが、やはり身近な方が見守っていただくという話なのかなと思います。次に交通弱者というか足の問題、道路の問題、買い物弱者の問題が上がっておりますので、4番の方お願いします。

参加者4 先ほど高齢者の一人暮らしの問題ということがありましたが、一人暮らしになる要因というのは、家族の問題がほとんどだと思います。元気で明るく暮らすためには、一人暮らしになったあとが重要だと思います。一人暮らしになって社会との繋がりとか、人との付き合いがなくなって、だんだん家にこもりがちになって、ますます社会からも自分からも隔離してしまう状況になってくると思います。

そこで、一人暮らしになったあとの問題は、年を取ってきますので、身体的にも精神的にも衰えてきますし、出不精にもなります。出かけたいときに出かけられるという移動手段があるのは、まず一番重要なことだと思います。うちの集落のほうも高齢化が進みまして、身近なところだと、ゴミ集積場が集落の中央に一箇所しかないの、そこにゴミを持って行くだけでも、かなり重労働ではないかと思われるような方がいます。増々年を取ると、ゴミ出しさえもできないのではないかと思う状況があります。一番大切なところは、社会との繋がりをいつも持てるような環境、人とのつながりが持てる環境です。そういう環境をつくってあげれば、明るく元気に暮らしていけるのではないかと思います。そのための方策を考えるのが、一番重要ではないかと思います。

健康福祉部長 先ほど地域での見守りについてお話しましたが、地域の見守りをするにしても、やはり普段から顔が見える関係を、どうやって築いていくのかが重要だと思います。知らない人に声かけするよりも、やはり顔見知りの人に声かけする方がしやすいと思いますので、例えば、集いの場を設けるとか、自治会の行事の中に高齢者の皆さんが、なるべく参加できるような方策を考えながら、顔が見える関係をどう築いていくとか、それがなければなかなか支援すると言っても、上手くつながらないのかというふうに思います。ゴミ出しについての公的なサービスですと、生活支援のサービスや、シルバー人材センターが行っているものを、上手に利用しながら、あるいは地域の皆さんの力をお借りしながら、できない部分を補っていくと。なかなか難しいと思うのですが、そういう関係性を築いていかないと、この先難しくなってくるのかというふうに思います。ゴミ収集は、ステーションで収集するというのが基本なのですが、ゴミステーションに出すことも難しい方の場合は、ゴミの収集サービスというものもやっていますので、そういうことも活用していただければと思います。

市民生活部長 私の方は公共交通に携わっているわけなのですが、昨年、日光市内の全地域を回らせていただいて、公共交通の新たな計画のためにご意見を伺いました。高齢者の足の確保というのは、日光市内全域の大きな課題であるというのは当然のことなのですが、今は何とかやっているというのが実態で、将来に向けた不安というのは、当然、皆さんお持ちだということでした。今後やっていく中でも、高齢者の移動支援というのを、重要施策として位置付けようということで、計画の方は作らせていただいています。この地域は、公共交通という分野から言えば、路線バスの小百線、温泉線、大渡線があります。ただ、利用される方はかなり少ないというのが実態です。公共交通となりますと、そういう形になってきまして、バス停まで行けない人をどうするかというのも、当然どの地域でもそういう悩みはあります。これはどうやって救っていくかというのは、地域の状況によって色々違うのですが、この地域においても、そういうところに重点を置いてやりましょうということで、計画の中では作らせていただいております。ただ、具体的にどうするというのはこれからなのですが、昨年も出たかと思いますが、デマンド交通ということで、自宅まで車が行って乗せて行くという交通を、落合・猪倉・小来川の3地区で取り入れています。デマンド交通は万能型で非常にいいということで始めさせていただいているのですが、実態としてはあまり利用していただけないと、まだ自力で動ける方の方が多いという実態なのだと思います。そのようなこともありまして、経済的な面で日光市がどこまで、どういった方を支援したらいいのかというのは、地元も含めてやはり考えていかなければならない大きな問題だということ。具体的にどうということはまだ言うことはできませんけれども、そういう状況だということ

です。群馬県桐生市のコミュニティーバスということで、そういうものはどうですかというご提案をいただきました。豊岡地区は、比較的中心地が近い距離にあります。今、実験されているバスというのも、低速の20キロくらいのスピードです。近所の人たちが集まって話をしながら、ゆっくり買い物に行くというような、色々な意味を持ったということも、私も勉強させていただきましたが、その地域によって、何を目的にどういったものが必要なのか、そういう検討をしていく必要があると思います。先ほどのゴミ出しの話で、お宅へ伺ってということは制度的にもあります。身体が不自由で、ある程度のハンディを持った方に対して、市のほうで伺ってというのは、やっているということはやっています。現状では、動ける方は難しいところはあるのですが、制度的にはそういうものもやっております。

参加者4 私は最近1つだけ思うのは、高齢者を元気にという色々なイベントがありますし、制度もしっかりできていると思います。これ以上、新しく色々なものをつくり出すということは、なかなか難しいと思います。色々なイベントに出たくても、何となく億劫で出られないという人のために、日光市が公共的なもので、一度見学や体験をさせるという機会をつくったほうがいいのではないかと思います。食事会でもいいと思いますし、定期的に無料の送迎バスを出していただいて、体験や経験できるようなイベントをやると、色々なイベントもますます活用していただけるようになるのではないかと思います。一度体験、経験させてあげる機会を設けてあげるのが、一番ではないかと思います。

副市長 それでは、同じような課題を提供されている方がいらっしゃるのですが、11番の方お願いいたします。

参加者11 交通の問題ということで、交通手段としてはスーパーとコンビニエンスが遠いので、食料品とか生活用品を購入するのが大変です。あとは、病院の通院とか各種行事への参加ができないということです。あと、コミュニケーションの問題として、会話をする機会が少ない、これはプライバシーの問題があって、相談する相手がいないということです。独居老人の増加は、親と一緒に生活は嫌だという人がいます。その他として、ゴミ出しや電球交換、庭木剪定、草取りなどがあると思いますが、これらをどうするかと自分たちで考えてみたのですが、老人クラブの会員が減っているわけです。特に前期高齢者の若いリーダーが不足しておりまして、今色々な行事に参加するには、老人同士が寄り合いでやっているのですが、これも高齢者の運転が色々と困難になっていまして、これから交通手段をどうしようかということから、若いリーダーに声をかけて、会員相互の助け合いが必要なのではないかと思います。あとは、高齢者の話し合いの場づくり、地区の公民館等を利用して交流活動、お茶会等の場所をつくる、こういうことも1つの案としていいのではないのかと思います。あと、自治会の要支援者への積極的介入、これはプライバシーの問題がありまして、どこに独居老人がいるのかよく分からないので、ある程度情報を公開し共有して、隣同士で生活して行きたいと思います。あと、地域の支援活動として、訪問介護や通所介護は、日光市の方にお世話にならないといけないと思うのですが、最終的には健康に十分注意しているのですが、長年生活していますから、あちこちと故障があるものですから、今回このようなことを書かせていただきました。

副市長 デマンドの問題も、課題が色々ありますので、これから整理していかなくてはなりません。足

尾の中に路線があって、唐風呂線が廃止になった関係で、いわゆる路線バスのところまで集落の中から出て行くことができない、そこは唐風呂線が廃止になったということの影響だと思うので、タクシー券を出して最寄りのバス停まで利用できると、そういう仕組みも場所によってはあります。避難行動要支援者の方の名簿というものを、健康福祉部の方でつくっていただいて、それは自治会長にお渡しさせていただいているのですが、利用するときも余程の災害が起きて、すぐに避難が必要だという、本当に切羽詰まった時にしか使えないという、そこがまさに個人情報の壁がありまして、そこを突き破るためには、自治会の中の一番小さな組内の中で、回覧板を回していただいて、本人が意思表示できなければ家族でも構わないと思いますが、名簿をつくることについての同意を得ていただく。個人情報を突き破るのは同意制なので、本人の同意があれば名簿はつくれます。そこは、行政側が提供している名簿と別に、自治会の中で同意を取った名簿をつくっていただければ、いつでも利用できるという形になります。そういうことも、これから仕掛けていきたいと思っています。あと、買い物の話ですけど、昨年も色々議論が出たのですが、買い物というと、どうしても足が伴わなくては駄目だという話もあるのですが、こちらの居住地よりも、旧栗山村の奥地や足尾も含めてなのですが、買い物に行くことが困難な場合があります。ただ、生活必需品の調達に限っては、宅配業者等を利用したり、移動販売車に奥地に入ってもらっているケースもあり、購入することが可能だと考えています。しかしながら、買い物は自ら出向いて、自らの目で選んで買うという楽しみもあります。そういう生き甲斐を感じられるような意味の目的が結構強いところもあり、栗山や三依では買い物ツアーと銘打っていますが、実際は今市の大規模店などに行くバスの中での話し合いを楽しみとしてやっているケースもあります。それがだんだんと街中のところにも届いて行かなければいけないということも、これからは出てくるのかもしれませんが、現状はそういう取り組みをしているところもありますので紹介させていただきました。次に、意見としましては、集いの場の創出、集まる場所が欲しいということが多くの方から出ております。1番の方をお願いします。

参加者 1 2年前ほどまで、私が作ったのですが親たちがお年寄りが集まる場所というものを運営していたのですが、諸事情がありまして1年半前に施設をやめたのですが、今になって思えば、やめなければ良かったと多少の後悔は残しているのですが、どうして辞めたかという、お年寄りの集まる方が毎年減っています。どうしても体が動かなくなった、あるいは不幸にもお亡くなりになったということで、私の親が他界したこともありまして、やめてしまったのですが、もう一度やってみたいと思っている次第です。なぜかという、あとから聞いた話で、こういう行くところがあって良かったです、お世話になりましたということ、最近になってそのような話を聞きまして、親たちはいいことをしたのだということで、後悔をしているというのは多少あります。空き家あるいはお節介な独居老人がいる場合には、そういうところを拠点として、集まってお茶を飲んでお話をして帰る、それだけでもいいのではないかという気がします。とにかく引きこもりがなければ、多少のストレス発散になったり、あるいは家庭の中で少し嫌なことがあっても、話すことにより元の自分を取り戻せるということにつながるのではないかと思います。独居老人の方なのですが、少し前に私は異変に気づいていました。そこで終わってしまったのが、非常に残念なのですが、時折娘さんのところへ泊まりに行くということで、家を空ける人でした。そのようなことで、また娘さんのところにも行っているのかという気がして、そのままにしてしまったのですが、あとから聞くとそのとき体調不良だということで、もう少し気が利かなかったかと思

って自分自身で反省しています。そういう意味では、一番小さな組織として家庭があつて隣近所があるわけなのですが、そういう人を時折声かけたらそれでいいのではないかと、自分も安心するし、声をかけられた人も気にしてくれるのだなど、お年寄りはいさつだけでもいいのではないかと思います。集落や地域内に空いている家屋があれば、そういうところを拠点にして、何らかの使い方というのがあるといふと出てくるのかと思うのですが、お年寄りたちに任せるということで、集まる場を提供できればと思います。

副市長 集まる場所ということで、例えば地区の集会所というくくりではなくて、もう少し小振りなイメージですか。

参加者 1 集会所でもいいと思うのですが、集会所を開けるにあたっては、公民館長が主になって開け閉めや取りまとめをすると思うのですが、歩いて行くのには、距離的に近いほうがいいと思います。私のところを例にしますと、歩いて行ける人は結構いると思うのですが、2、3人でも集まる場所があれば小さくてもいいと思います。親が友達を呼んでもいいかというのは、跡を取っている人の理解が必要なのだと思うのです。とにかく、気の合う人たちが集まれるような環境づくりを、どうにかしていけたらと思います。

健康福祉部長 高齢福祉課のほうで、生活支援体制整備事業というのをやっています。各地域で福祉のまちづくり委員会の中で、この部分をどうしていこうかということ、それぞれ協議していただいております。その地域の状況を把握して、ちょっとした集いの場をそれぞれに設けていけないかということ、話していただいている状況です。足尾地域ですと、特に公民館とかそういうところだけではなくて、高齢者の方が行って話をする場所を地図にした、「たまり場」というものがあります。地域の中でそういうものをまとめていただきました。そういう取り組みをしているところもございます。日光市としても、集いの場というのは、顔を見られる関係というのもあって、そういうものを広めていきたいと思っております。先ほど申し上げた生活支援体制整備事業の中で、いろいろと情報を把握しております。例えば、こういう地域ではこのようなことをやっているというご紹介は、今後していきたいと思っております。先行事例を参考にして、それぞれの地域で取り組めることがあるのであれば、参考にして取り組んでいただくと。それから集いの場を設置するにあたって、初期費用とかが掛かる場合があると思います。公民館や公共施設を使っていたかというのはあるのですが、それ以外に、もっと小地域でやりたいという場合に、集いの場を設置するにしてもお金がかかる、あるいは運営していく上でも、お金がかかるということも伺っております。そういった部分について、行政として何らかの支援ができるかということは、現在検討しているところございまして、こうしますということはまだできていないのですが、こういった集いの場づくりの設置に向けて、ご支援ができるのであればしていきたいというふうに考えています。

副市長 2番の方、場の提供のことでお聞かせ願います。

参加者 2 高齢者が元気で明るい地域づくりというテーマなのですが、私も高齢者なものですから、地

域に住んでいて、このことについてはいつも悩んでいます。地域に住んでいても、年寄り仲間とグラウンドゴルフをして遊ぶのですが、他の年寄り連中とかは行く場所もなく、結局家にいるので、地域とのコミュニケーションはほとんど取れていないという状況なものですから、これから自分もどうしたらいいのかと思って、自分より年上の人に色々話を聞いたら、将棋や麻雀でもいいし、そういうサークルをつくってみたり、学校の図書館を開放してもらって、そこで本をいろいろ読んだりしたいという人が結構おりました。実際はコミュニケーションと言っても、人が集まる場所がないのです。グラウンドゴルフ以外は場所がありません。その解決方法をどうしたらいいか悩んでいるのです。それと、一人暮らしの老人についてですが、一人暮らしになるとどうしても身の回りを構わなくなってきました。顔を洗わなかったり、部屋の掃除をしなかったり、お風呂に入るのも面倒くさいとそういう方が、私の周りに何人かいたのですが、孤独死をしてしまった方もいました。そういったご家庭はどうしても中に入れないのです。実際は自分も行きたいと思うのですが、家までなかなか行けません。そういうものもあるので、どうしようかと思ひ先ほど考えていたのですが、見守っていくというのは、なかなか難しいと思います。

副市長 イメージされているものと、少しずれるのかもしれないのですが、ここも間もなく建て替えになり、相当機能面でもアップしていくと思っています。一斉に使おうと思って、競合するということはあるかもしれません。

参加者 2 年寄りになるとここまで来るのが遠いのです。きっと地元の近く、例えば学校などにあつたらいいと思います。

副市長 あとから教育長から話があるかと思いますが、一般的な例として言うと、都会のほうも子供が減ってしまっていて、学校の大きな器の中に余裕教室ができていて、その余裕教室をどうやって利用しているかというのが、文部科学省もだいが推奨している話で、お年寄りのサロンとか、保育園とか、児童クラブ的なものとか、そういうものを一体的に複合化して使っているということがトレンドになっています。現実には平日から解放できるかということ、セキュリティなどの問題もあるのですが、土・日に限っては、その辺の開放も盛んにやられているところがありますので、それが日光市にフィットするかどうかは分からないのですが、そういった学校の利用というのは、十分にあり得ると思っています。

教育長 現時点で、市内の小、中学校でそういうかたちの学校開放というのは、今のところ検討されているとか、何か計画を立てているというようなことでの進み具合は、無いというのが現実だと思います。ただ学校側から、地域の方々や高齢者の方に来ていただいて、色々な催しものに加わっていただいたり、参加していただくということはあると思うのですが、例えば、図書館を自由に地域の方に開放しますのでお使いくださいということになると、安全管理の面とか、実際に教育活動が展開されていますので、平日での解放というのは難しい状況にあるのかというのが、現実だと思います。

健康福祉部長 場所の話は色々なケースがあるものですから、一概には言えないのですが、我々が所管している施設ですと、地域のサロンのようなもので使っていただいているところもございます。ただ、それぞれの主目的があるところについては、そちらとの調整になってしまうので、一概に可能ですとかとい

うのは難しい部分があります。不特定多数の方が使うという話になってくると、やはり安全確保とか、色々な面で課題が出てきますので、その辺の課題を解決しながら対応していくという形になると思います。それから、先ほど見守りの件で、お年寄りが1人で、年齢を重ねていくと身の回りのことが億劫になっていきますし、人の介入を拒否する傾向にあります。なかなかそういったことで、地域の方が軒先に行ってお話するという事は難しいと思います。ただ、おかしかなという感じることがあれば、地域包括支援センターの方で意見を伺うということも可能ですので、ゴミ屋敷になるというケースですと、初期の認知症が疑われることが多々あります。認知症があまり分かっていなくて段々と悪化してしまい、そうなった時には支援が難しい状態になってしまうというようなことがあるので、ケースによっては我々が早期に認知症の発見というのを取り組んでおります。我々、行政が伺う時に、そういう目的で行くというのは難しいので、健康面でいかがですかと伺うケースが多いのですが、専門職から見れば認知症が疑われるかなというも分かりますので、そういう情報をいただければ、日光市の方でも動けるかなと思います。

参加者6 民生委員をしておりますので、一人暮らしの方とかそういうところも尋ねるのですが、結構、近所の人が、戸が開いていないと見守りをしたり、ゴミをその家まで持って行くと、その家の方がゴミステーションまで運んでくれるとか、結構近所の人と付き合って過ごしているのだということで、心配はないかと思って見守っています。病院も日光市の制度を使って、車で送迎してくれて無料という話も聞いているので、そういう制度もあるのだと思って聞いているのですが、一人暮らしで心配な方が1人いて、栄養失調みたいなのでまめに見に行かなければいけないと思っています。ほとんどの方は、何とか家の中においては自立して生活しています。ただ、高齢者の方のところを歩いて感じるのは、話し相手がないので寂しいのだなと思います。その方の家に行くと1時間ぐらいつと喋っています。そういう人たちに、何とか話をさせてあげる場所があったらいいのではないかと思います。前はよく電話で友達と話したのだけれども、最近はお互い耳が遠くなって、電話もなかなか通じないというような話です。次に、高齢者の医療費とか介護保険料というのは、日光市の問題だと思うのですが、高齢者に元気であるということで、今の状態が長続きするように、運動の機会を設けるようにしたらいいのではないかと思います。いきいきサロンとかいうのがあって、そういうところでも運動は行なっているのですが、年に1回ぐらいなので、そういうイベントではなくて、ここには週に1回とか来ましたが、週に1回、2週間に1回でもいいと思うのですが、そのような運動の機会があったらいいのではないかと思います。運動の機会も、今、ラージ卓球とかお年寄りの運動もあると思うのですが、そういうのは結構ハードルが高いのです。若いときに運動した人にとっては、どうということはないのですが、何もしてこなかったお年寄りにとっては、そういうのも難しいので、ラジオ体操の延長のような運動でいいと思うのですが、そういったものを定期的に行ったらいいのではないかと思います。そのあとに、おしゃべりの時間を設けたらいいのではないかと思います。テレビで健康長寿の話を放送していると思うのですが、健康長寿の条件は、人と直接コミュニケーションを取ることとやっていたので、おしゃべりをするというのはとても大切なことではないかと思います。健康づくり推進というものもやっていて、お昼を出してあげた方がいいのではないかと、色々話に出るのですが、そういうことをすると長続きしないので、そういうものは無しにして、運動とおしゃべりの時間を設けると、それを定期的に行うと、そうすると健康で楽しく生活していけるのではないかと、ただそれだけを

考えました。誰がこれを主体として行うのか自分の中で曖昧だったので、色々書いたのですけれども、体操の指導者や補助をするボランティアが必要だったり、普段出歩けないので車で送迎するのが必要だと思うので、そういうボランティアも必要ではないかと思って書きました。

健康福祉部長 健康教室というのは、市の方でやっています。そこでも健康講話ということはやっていますけれども、体操等も行っていたりします。そういうものに参加していただくというのものも、1つなのだろうと思っています。それから、出前講座というのも市の方でやっていますので、地域で集まった時にでも出前講座をご利用いただければと思います。もう1つは、定期的というお話がございましたけれども、例えば、他の地域ですとサロンということで、週に1回程度やっているところもございます。それは行政が主体で動いている訳ではなくて、地域でそういうサロン活動をしています。ただ集まるということは、なかなか難しいという部分もあります。貯筋アップ体操といって、単純に重りを手や足に付けて簡単な運動をするのですけれども、筋力をつけて体づくりを図ると、そういう貯筋アップ体操を核として、サロン活動を行なっている地域がございます。貯筋アップ体操の体操指導というのは、行政の方に要請していただければいいので、そういう場を設けていただければ、積極的に支援していきたいと思っています。それ以外にも、ラージ卓球というお話もありましたけれども、ニュースポーツや軽スポーツを推進のため指導する制度もございますので、ご要望いただければ、そういう指導員も派遣するというのも可能であります。基本的には、定期的にそういう活動の場を設けていただければ、指導者の派遣というのはできますので、ご活用いただければと思います。それ以外にも、作業療法士や理学療法士の派遣ということもありますので、地域やグループによって、どういうことをやりたいかというのは違うと思いますので、それによってご利用いただくということで、サロンなどの運営を支援していくという形になると思います。

参加者6 結局は、地域でやらなければいけないということですか。

健康福祉部長 市役所では健康づくりとか健康教室など色々行っています。ただ、数的にやはり何十、何百となってくると対応は難しいのです。やはりそこは地域の中で、そういう集いの場を設けていただいて、そこに指導員とかを派遣するというので、こういうやり方でないと続かないのかなと思います。

参加者6 実際に地域で行うとなると、誰が音頭を取るのかということがあります。

健康福祉部長 地域のリーダーというのは、どうしても必要になってきます。誰かが中心になってやってくれるだろうという動かないですから、そこは地域で中心になっていただく方が必要です。実際、他の地域でやっていたところ結構増えてきていますので、そういうところを参考としていただきながら、それぞれの地域や小地域の中で、そういう活動を展開していただければということでございます。生活支援体制整備事業という事業を市は展開しているのですけれども、それは、そういう地域の集いの場を、なるべくそういう活動を広げていくように検討していきましょうということで、話し合いをしていただいています。豊岡地区でも、皆さま方には福祉のまちづくり推進委員会というところが、協議の場になっています。市の方で、社会福祉協議会に委託をして行なっております。それぞれの

地域で生活支援コーディネーターを委託してしまして、その方が中心になって、その地域でそういうサロンづくりなどに取り組んでいただいています。その取り組みの中で、各地域でそういうサロンづくりを進めていきたいと思ひます。

副市長 次に、カラオケなどの提案された、7番の方お願いします。

参加者7 運動とか、そういうことがたくさん出たと思うのですが、カラオケで歌うというのは、結構お年寄りの方は好きだと思ひます。年を取ってくると、どうしても誤飲とかが多くなってきて、肺炎を起こすということがあると思ひます。運動ばかりではなく、喉を鍛えるというのはとても大事なことだと思ひます。歌を歌うということも私は大事なことだと思ひて、カラオケを提案させてもらったのですが、公民館にはカラオケの機器があるということを知ったのですが、自治会のほうにはカラオケ機器がないので、カラオケ機器を貸し出してもらえれば、先ほどの話ではないのですが、定期的に月に1回とか集まって、歌を歌ったり軽い運動をするというのは、大事なことだと思ひます。

教育次長 公民館の方で、カラオケ機器を平成29年度に整備しました。空いている時間であれば、貸し出しは可能です。そこはまた、公民館のほうにご連絡いただければと思ひます。

市長 私は公約の中に、高齢者の皆さんの居場所づくりという視点で、あちこちにサロンの拠点がたくさんできてくればいいということで、政策の中に謳わせていただいた経緯があります。

なぜそのように思いついたかと言ひますと、自宅という訳ではないのですが、あちらこちら歩くと色々な場所で皆さん歌っています。中には自主的にボランティアで運営して、家賃を払って会場を借りて、日中ずっとやっているところなどもありました。利用者の皆さんが200円とか300円払ったり、冬場は暖房代をみんなで50円ずつ出したりしています。9時から15時ぐらいまで、そのようなことをやっているところもありますし、昼間は飲み屋が空いているので飲み屋をお借りして、皆さんでカラオケの練習をしたりしているところもありました。

そういう集いの場というのは、非常に大切だと思ひました。ただ、誰かが腰を上げてとか、誰かがお金を出したりというきっかけがないと、なかなか進まない部分もあるのではないかとと思ひます。その部分を少しでも、金銭的な部分も含めて、市が助成をする制度があれば、少し広がりを見せてくるのではないかと考えました。場所や地域、ハコによって制度設計というのは、非常に難しいと思ひますが、内部で協議はしていきたいというふうには思ひています。

皆さんのお話を色々聞いてしまして、感想を言わせていただくと、高齢者と一括りにしてしまひますが、元気な高齢者と補助が必要な高齢者の皆さんと、その中間の皆さんというふうに分けて検討をしなければいけない、その部分を一緒に話をしていくのが非常に難しいのかと思ひました。

元気な高齢者の皆さんには、どんどんスポーツにも参加してほしいと思ひます。私の知り合いでは毎日バスに乗って、かましんのカーブスに朝9時から並んで、会費を払って一生懸命通っている方もいます。そういう方には健康寿命を延ばすために、例えばその部分に少し補助をして、どんどん通えるようにした方がいいのではないかと、元気な高齢者の皆さまに対するサービス、それから本当に補助が

必要の方、その中間の方もどうしたら元気な方に足を向けてもらえるか、気持ちを向けてもらえるかというところも、考えていかなければいけないのかなというふうに、皆さんのお話を聞いて感じました。

副市長 それでは、免許返納や居場所の話を含めて5番の方をお願いします。

参加者5 高齢者の免許返納が、今、話題になっていると思うのですが、これをするにあたっては、どのように取り組めばいいのかとなると、やはりタクシー券とか敬老バスとか、交通弱者に対するものの対策が必要だと思います。市長が市長選でタクシー券を出せるような市にするというお話を聞きましたが、タクシー券とか、敬老バスは無料というのは難しいと思うのですが、敬老バスやタクシー券を配付するなどの、65歳以上を高齢者ということを知ったのですが、65歳の方は運転できると思うので、高齢者の75歳から80歳以上の方に、免許を返納できるように促せられる対策を、何か出すというのが必要なのではないかと私は考えています。私は仕事柄、二社一寺の近くで仕事をする機会が多いのですが、修学旅行生や観光客でもの凄く賑わっています。それに対して、京都や名古屋の観光地では、すでに敬老バスや敬老手帳というのを配付して取り組んでおります。世界遺産日光という大きな市の中で、このようなものに取り組んで、さらに観光地を良くしていけるようにしたらいいのではないかと私は感じました。日光を元気にするというので、確かに高齢者や地域に目を向けることも大切だと思うのですが、日光に行った方は日光に泊まるのではなく、鬼怒川に泊まる方も多いと思います。鬼怒川温泉と日光を巡るバスがあると思いますが、日光駅から二社一寺に行くメインストリートの間が、電柱を地下に埋めていて道幅も広くなって、観光名所としても良くなっていると思います。低速公共交通のタイヤがたくさん付いていて時速は15キロぐらいな小さなバスを、道が広がっている日光駅から二社一寺までの道に専用バスのエリアみたいなものを設けて、日光駅から二社一寺を巡らせるということで、地域の高齢者や観光客のアップ等の手段を取ったりすれば、温泉を利用するお客も増えると思います。温泉を利用するお客さんが増えるということは、入湯税も上がるので、入湯税の獲得にもつながると思います。高齢者が元気で明るい地域づくりとは少し離れてしまうのですが、たぶん日光市は観光でもっと良くして、全面的に世界遺産にマッチングしてはどうなのかなと思います。色々な視野から考えてみました。

市長 公約を研究していただいて、ありがとうございます。心より感謝いたします。私から質問なのですが、市営バスに乗ったことはありますか。

参加者1 市営バスは乗ったことはないです。

市長 私も、市営バスに乗ったことがないのです。他の方はどうですか。例えば、無料だとしたら乗ってみますか。

参加者1 地域的なものがあって、私の家からバス停まで1.5kmぐらいあります。そういうことを言われますと、乗りたいと思ったこともないです。

市長 なぜ伺ったかという、今は乗用車の運転ができて、いつでも好きな時にどこへでも行ける人は、

バスに乗ろうという発想自体がありません。車は危ないかなと思う頃は、乗ったことがないのでたぶんバスには乗らないです。今、健康な時に億劫なものは、調子が悪いとなった時には、なおさら乗らなくなると思います。それは私の母親も一緒に、77歳なのですが、乗用車で好きなところにもいつでも行けるので、新里街道の目の前をバスが通っていますが、絶対に乗らないし、乗ったことがありません。私の母が住んでいるエリアもデマンド交通をやっているのですけれども、一度登録をして利用して欲しいと思います。できるだけ元気なうちに車は車庫に停めて、公共交通を利用する癖をつけて欲しいと思います。それをやっていくとおそらく高齢者の誤作動による交通事故とか、そういうものを確実に減らせることができるのではないかと思ったのが、そもそもバスを無料にできないかと思った発想の原点です。

それでもバスの利用者が増えないと仮定すれば、そのバス路線自体を見直して、例えばデマンドの交通に切り換えるとか、そういうこともやっていく時なのではないかと思います。先々を見越して、地域の公共交通をバスの無料化にすることにより、高齢者の皆さまに公共交通を使ってくださいという啓発運動をして、試しに乗ってみるかという発想の転換で、1.5km離れているから大変だけれども、車に乗らないで歩いたほうが足のためにはいいかと、無料だから乗ってイオンで買い物をして、またバスで帰るか、たまには車を置いたまま出かけてみるかということになってくれれば、一番いいなと思っていました。それが発想の最初です。

それから、もし免許証を返納しようと思っていた際には、今は11,000円のタクシーとバスの共通利用券なのですが、バスが無料になれば全部タクシーに使えますので、緊急時のときに約3倍の30,000円で使えます。なおかつ1年だけだと、どうも免許証を返す気にならないと思うので、2年目から5年目は毎年10,000円ずつタクシー券を出すのもどうかと考えました。バスの無料化、タクシー券の拡充、それから最後に、それでもやはり車に乗るという方には、安全装置が付いている車に買い替える時には、市が補助金を出しますと、なるべく買い替えるように促進をして、危険な車に乗っているとすれば安全な車に乗り換えてくださいと、それをやることで悲しい事故を減らすことと、高齢者がなるべく公共交通に馴染んでもらうように宣伝をしながらやっていくというのが、非常に大切だと思ったので、その公約をしました。

財政的には、今、国とかの補助をもらいながらバスの路線を運営しているのですが、料金とかを見ていくと、おそらく全部赤字の路線ばかりです。もし無料にして乗る人が増えてくれれば、一人当たりの単価は下がります。今、何百円で払っているものが、高齢者の皆さんはバス代が無料になり、5人10人と利用者が増えてきましたという、財政的には増えてくるのです。いろいろな試算をしながら、今後研究していきたいと思っているのですけれども、ただ、子育て支援の給食費サービスでも言っているのですが、サービスは始まるとバックはできないので、これなら財政的に何とかやっていけるだろうという担保を取らないと、なかなか怖くてギアを前に入れられないというところはあるのですが、そこは色々なコストを削減して、無駄を排除して、福祉サービスに使っていききたいと、無駄を削減して将来の負担を減らして、必要なところに必要なお金を使っていくようにしていきたいと思っています。

私もなるべく公共交通を使うようにしてしまっていて、実は昨日と一昨日は公共交通で帰ろうと思い、東武電車で200円を払って小代まで乗りまして、少し歩くという癖を自分自身も付けようと思っています。今日の午前中は、今市地区であいさつ運動をしようという話し合いをしたのですが、なるべく車をおいて公共交通を利用しようという、啓蒙・啓発運動も必要なのかもしれないと思っています。

副市長 続いて、集まる場所や例えばお楽しみの機会を設けるという意味で、9番の方をお願いします。

参加者9 ここに書いてある課題ではないかもしれないのですが、私事でテレビや新聞で紹介されている高齢者のお話を聞くと、自分たちが見つけた趣味や仕事、ボランティア活動をすることによって、とても健康でいきいきと長生きされている高齢者のお話を聞くことはあるので、そのようになりたいと常日頃思っています。解決策の1つとしてあげさせてもらったのは、豊岡地区社会福祉協議会で自治会ごとに行きいきサロンという認知症予防講座等を開いているので、この講座を自治会ごとにもう少し内容を広く、そして多くの人に参加できるような講座を多くしてもらえれば、いつまでも元気でいきいきとした高齢者でいられるのではないかと思います。それと市の支援が必要なことのところに書かせてもらったのですが、中央公民館でやっている杉並木大学講座なのですが、ある程度いろいろな講座はあるのですけれども、栃木県のシルバー大学校の講座と比べてみると内容が違うので、市でやっている杉並木大学講座も講座内容をもっと増やして、自分の趣味やボランティア活動を年取っても地域の手助けになれるような、趣味とか給料をもらえる仕事にも繋げられるような機会があれば、講座を受講してみたいと私自身が思ったので、ここに書かせてもらいました。

教育次長 今、ご指摘がありましたように、栃木県がやっているシルバー大学の中身とは、かなり違うのかという部分があります。栃木県がやっているシルバー大学校の場合は、2年間で80日間、学習時間として320時間ほどやるような大規模な大学校です。もともとは高齢者の方々に、地域社会の活性化を促す人材を養成するというので、やっている事業になりますので、この方たちは学習が終わりますと、地域で活動していくというのが前提となっております。市がやっております杉並木大学校の場合は、教養講座や選択講座とかがありまして、選択講座については写真、料理、陶芸、書道、水彩画、版画と、どちらかという自分の趣味を活かすというような部分が主になっています。教養講座のほうでは、ボランティア講座など大きな講座を年5回ほど実施しておりますけれども、シルバー大学に比べて、まだまだ自分の趣味のところからあまり離れる部分はないのかということがあります。ただ卒業生の皆さんの中には、公民館事業に協力していただいて、子供の書初め教室などでご指導いただいて、身に付けたことを活用していただいている方もいます。社会の全般というところまではいきませんが、杉並木大学校の魅力が出るように少し研究させていただいて、メニュー等を増やせれば、また担当と相談してみたいと思います。

副市長 生涯学習と地域住民のつながりということで、10番の方よろしくをお願いします。

参加者10 私のほうでは、生涯学習、生涯スポーツの推進、健康づくりということであげさせていただきました。高齢者の問題は、日頃から皆さん重々おわかりになっていると思うので、いかに一日も長く高齢者の方が元気でいられるかということを考えて、生涯学習と生涯スポーツをするということで、学習活動の拠点となる図書館の充実とか、スポーツ振興課での運動施設の充実、その辺を市の方でも考えてもらえればと思います。先ほどパンフレットの方に、公共施設の問題ということで、色々ほかにも書かれていたのは分かるのですが、これから高齢者の方が一日も長く元気になるのが、一番お金がかからない、そういうふうにしたものですから、このようなことで1つ目は考えさせていただきます。それと2

番目は地域住民のつながりということで、高齢者の方は仲良くしていた方が他界してしまって、親しい方がいなくなったから家にこもりがちになる。家族で住んでいてどこかに出かけると行っても、声をかけづらいということもあります。今は学校の方でも、地域住民の高齢者の方との交流ということで、学習の方もやられていると思うのですが、ぜひそういう機会を少しでも増やすような教育方法なども検討していただければ、高齢者の方も張り合いがあるのかなと思った次第です。年齢に限らず集まれる機会なども必要ではないかと思いましたので、書かせていただきました。

教育長 1つ目の生涯学習、生涯スポーツの推進ということで、施設やソフト面など色々な部分の充実ということだと思います。公共施設マネジメントの考え方でいくと、新たな施設をつくっていくことは難しいと思います。今ある図書館の充実とか、スポーツにつきましても、例えば高齢者が参加しやすいようなスポーツとか、そういうところは考えられると思います。ちなみに図書館のところにも以前ありました歴史民俗資料館を改築して、スペースをつくって飲食ができるようにと考えています。既存の施設をより使いやすくということなので、市の方は考えさせていただきたいと思います。

副市長 13番に書かれていることは、これからやらなくてはいけないことで、このポイントは発展的にベテラン市民の方たちを、これから活躍の場として活かしていかなければいけないという貴重な意見として、13番の方お願いいたします。

参加者 13 市のスポーツ振興推進計画の中にも、地域総合型スポーツクラブを推進しなさいということが書いてあって、昨年度いろいろと申請を出したところですけど、この地域スポーツクラブというのは何かというと、国の政策の中で日本体育協会の方から出たものです。4月からは日本体育協会ではなくて、日本スポーツ協会になりましたけれど、11月に日本スポーツ協会に設立の認定をお願いしております。申請がとおれば11月に日光市では4番目、栃木県では58番目のスポーツクラブができることになります。やっていることは、豊岡地区でスポーツに親しんで健康づくりを推進しましょう、地域のコミュニティづくりに寄与しましょうということでやっています。やるスポーツは、主にニュースポーツです。現在は1年半活動してきましたけれど、週一回、豊岡体育館並びに小・中学校の体育館を借りて、スポーツ吹き矢とユニカール、ショートテニスとグランドゴルフとか、色々な種目を考えております。設立した上は、もっと色々な種目をやっていきたいと考えております。しかし、この議案のために冊子とかお知らせを豊岡地区全戸に配付を3回ぐらいしましたが、思ったほど集まりませんでした。高齢者が元気にあちこちで活動していますけれど、どこで誰が何をやっているか分かりません。私の提案としては、高齢者活動ネットワークや高齢者活動探検隊などという組織で、PR活動を豊岡地区で活性化させれば、もっと色々な人たちが活動できるのかと思います。その受け皿に、スポーツクラブがなれる場合もあるということです。課題として、やはり豊岡地区は人口が少ないということで、スポーツクラブは自主運営になりますので、会費を払って活動しなくてはなりません。お金を払ってまでスポーツをするという意識がまだ低いと、都会に行けばそのようなことはありません。一回1,000円でも2,000円でも会費を払って、スポーツジムや色々なクラブ活動をしています。そこら辺が現在の問題です。

副市長 今、スポーツの切り口があったのですが、実は高齢者活動ネットワークというお話があって、

これをどうやって動かしていくのかという課題で言うと、12 番の地域包括ケアシステムが核になっていくのかというのがあります。その辺のヒントになりうる話ということで、次の方をお願いします。

参加者 1 2 今日のテーマが、高齢者が元気で明るい地域づくりということで、高齢者でも、高齢者から超高齢者、今 100 年時代と言われております。私がこれを書かせてもらったのは、高齢者になった場合に、どのようなことを自分で生まなくてはいけないかということで、防災に備えがあるように健康づくりにも、自分でそれなりのチェックとか備えているのが必要だと思います。病院で健康チェックをしたり、個人的に健康の仕方があると思います。先般 19 日のとちぎテレビで、日光市は少子高齢化で高齢率が 33.6%、栃木県でも高齢率はかなり上の方ではないかと思えます。そういう中で、自分で健康チェックをして、玄関から出ると事故という危険が伴ってくると思えます。そういう備えもしなくてはいけない、あるいはつまずいて転ぶと骨折が致命傷になるので、そういうことを踏まえた場合に、高齢者になって一番最初に思うことは健康だと思います。その次に、健康であれば元気に働きたいとそういうことで、今度は自分の夢中になれる趣味を活かすことにより、介護の予防や地域づくりと、体が自然に動けば人と会話ができる場所に行けると思えます。ケアの問題は、新聞から抜粋したものでありまして、これから 2025 年になるとこういうことがあるということで、あえてこれは書かせてもらったことであります。もう 1 点は要望なのですが、超高齢者になった場合に、ぴんぴんころりと生きる人と、介護のお世話になる人の 2 通りがあると思えます。元気よく亡くなる人は 1%らしいです。そうしますと、介護というのは避けて通れない問題だと思います。日光市がこれだけ高齢化のパーセンテージが高くなるということは、認定介護者というのが増えてくると思えます。認定介護された方が、安心して介護施設に入れるような施設の充実というものを、これから行政機関で考えていただきたいと、そういう思惑で書かせていただきました。

副市長 先ほどの方からのお話で、高齢者活動ネットワーク、そういうことを動かしていくための健康づくりの備えとしての考え方というかこの辺も含めて、再度市長のほうからお願いします。

市長 今、地域スポーツクラブは、日光市に 4 つあり、大沢地区が一番新しいと思えます。私も知人がそこに関わっているので、とにかく活発に活動しております。起ち上げから 5 年たつと補助がなくなるので、その間に自立してくださいというような感じだと思うのですが、なかなか会員が集まらないということでしたが、各所の公民館には募集のチラシは張っているのですか。今何人ぐらい参加されているのですか。

参加者 1 3 貼ってあります。延べ人数だと 70 人ぐらいです。ただ、一回に多くて 10 人ぐらいです。

市長 やはり継続は力なりで、とにかく参加をして、参加している人が楽しいというのが周りに伝わっていくと、人が人を呼んで集まってくると私は思います。市としてサポートできる場所は、色々やっていたいと思いますので、ぜひ粘り強く頑張ってくださいと思います。よろしくをお願いします。大沢の方などは生き活きと皆楽しんで、それが生き甲斐で頑張っている姿もあるので、ぜひ継続して頑張ってくださいと思います。

それと先ほど介護施設の充実の話がありましたが、ここに書いてあるように先ほどの方が言っていた、75歳以上の世代がこれから2025年問題で出てくると思います。介護施設のお世話になりたいと思っている人は、たぶん誰一人としていないと思うのですが、結果的にはそういうことになる場合が非常に多いと思います。我々も例外ではないと思います。安心してそういう介護が受けられる、とにかく老後が安心して暮らせる日光市というのをつくっていくというのが、私どもの使命だと思しますので、努力をしてまいりたいと思います。

副市長 どなたか一言ございますか。

参加者5 地域で高齢者を見守ろうというお話がありましたが、私は芹沼に住んでいますが、芹沼は昨年から見守り隊というのを地域で始めまして、一人暮らしの高齢者の方が、家で亡くなっていたというのが年に2回ありまして、発見が遅かったということで、自治会で見守り隊をつくらうということになりました。芹沼地区は自治会の名簿をつくらうということで、今までなかったのもおかしいだろうと、自治会規約を変えまして、各家の家族構成のアンケート協力を依頼して、自治会家族名簿を作成しました。先ほども自治会ごとに家族名簿をつくってくださいみたいなお話があったと思いますが、昨年、各自治会は自分たちで地域を守ろうということで、防災のサイレンとかもありました。地震のときに公民館が避難場所が集まろうということで、防災のサイレンを流しても、何々さんの自宅は何人集まったということを、確認する名簿がないと確認できません。芹沼の自治会は何人集まったのか、避難場所といっても確認する資料がなければ、自治会で地域を守れないということで、プライベートな問題もあるけれど、一応知っておく必要があるということで、各家族の自治会名簿の作成を始めました。平ヶ崎などは、そういう自治会の家族名簿というものがあると耳にしたことがありますが、これからは知っておく必要があるということで、自治会長がデータを保存するというので芹沼はつくりました。高齢者見守り隊というの、日光市は久次良町がやっています。久次良町と芹沼だけなのですが、日光市の方からも意見をいただいて、昨年から見守り隊というものをつくって取り組んでおります。

副市長 まさに言われたとおりで、先ほど申し上げましたのも、例えば断片的に何ヶ所か取り組んでいただけるのは把握をしているのですけれども、それは全市的に必要なものですから、大きな地震や土砂災害が起きた場合というのは、健常者の方だったらすぐに逃げることができるのですが、ご高齢の方や体が不自由な方を、優先的に逃がさなければいけないということのためには、絶対に必要な名簿です。そういう意味で、市が整備した防災行政情報システムについても、早めに避難をしてくださいということよりは、1つ手前で、まずそういった先に助けなくてはいけない方について、何とか地域の中で協力して、優先的に避難させてくださいということなので、是非これは市の方でも、今後この辺を集中的に抽出していきたいと思っています。貴重なご意見をありがとうございます。